

# 松本基志 県政報告

群馬県議会議員

令和4年 夏号

松本基志事務所

〒370-0861 高崎市八千代町1-17-8

TEL 027(325)1727

FAX 027(321)7523



群馬県議会議員

## 松本基志

### 2月24日 4回目の県議会一般質問 県民生活を足元から問いただす

#### 令和4年度の予算審議で

令和4年度の群馬県一般会計当初予算案を審議する令和4年群馬県議会第1回定例会で、松本基志議員は2月24日、初当選以来4回目の一般質問に立ちました。予算案の「基金残高」について質問したほか、「子ども食堂」や「地域防災力」「ジェトロ群馬」など、県民生活の安全、安心に直結する内容を盛り込みました。中でも、子どもの支援策や防災への思いからは、政治家として何を大切に活動しているかが浮き彫りになりました。松本基志議員を支える基本姿勢を皆さんにあらためて紹介いたします。

#### 最大の少子化対策 「子ども居場所」充実を

食事・学び・交流…

少子化が進む中で、一人 求められる役割となつてい  
ひとり子どもを大切に育 ます。この分野への高い意  
て上げるとは地域社会に 識から、松本県議は「県内

子ども食堂をはじめ子ども  
の居場所」について、県  
の取り組みを聞きまし  
生活子ども部長は、令和  
3年9月末時点の状況を「子  
どもの居場所は218カ所  
開設され、子ども食堂78カ  
所、学習支援117カ所、  
体験活動の場23カ所」と内  
訳も説明。平成30年11月未  
の119カ所に比べ約2倍  
と、大幅に増えた状況を明  
らかにしました。

子ども対策が急速に充実  
してきたことを評価しつつ、  
松本県議は本年度のさらな  
る取り組みを求め、生活こ  
ども部長は「団体間のネッ  
トワークの設立」など連携  
の強化を図る考えを示しま  
した。県議は「食品ロス」  
ゼロをうたう県に、取り組  
みの一つとしてフードバン  
ク、子ども食堂の支援も求  
めました。

せた実績も紹介しました。  
さらに、ジェトロの隣に  
JICA高崎分室も開設さ  
れたことについて、松本県  
議は「県内企業の海外展開  
への支援」「外国人材受け  
入れ支援」への期待を質問。  
知事戦略部長は「適正な  
外国人材の受け入れ、人材  
育成、県内企業の途上国へ  
の事業展開など、幅広い分  
野でJICAと連携関係を  
強化していきたい」と展望  
を示しました。

ジェトロ群馬貿易情報セ  
ンターは平成30年7月、高  
崎ビルに開所しました。  
すでに3年半が経過しまし  
たが、この間、日本経済は  
新型コロナウイルス禍に見舞われ続  
けました。困難な中でのジ  
ェトロ群馬の取り組み実績  
などについて、松本県議は  
尋ねました。

群馬県民の危機に備え  
地域防災力向上を提案  
高崎市民、群馬県民の危  
機にどう対処するか。松  
本県議は日常の政治活動で  
「防災」に関心を持ち続け  
ています。令和4年度の県  
政の方向を決定づける第1  
回定例会でも、地域防災ア  
ドバイザーの養成と登録状  
況を問いました。県議自身  
も今、日本防災士会群馬県  
支部に所属する同アドバイ  
ザー。県と同支部の連携も  
重視しており、関連する質  
問もしました。

地域のつながりが希薄化  
する中で、県は開設経費の  
一部を補助する応援事業補  
助金を設けて「子どもの居  
場所づくり」を推進、答弁  
で「44カ所に補助している  
実績」も強調しました。

産業経済部長は「約25  
00件の貿易投資相談が寄  
せられ、200件以上の輸  
出案件が成約に至った」と  
成果を明らかにしました。  
高崎市内の食品加工を行う  
ドバイザーの養成と登録状  
況を問いました。

危機管理官は「県は地域  
防災アドバイザーの育成、  
登録を進め、今年1月末で  
636人おります。それぞ  
れの地域で防災力の向上を  
担っていたら、日本防災  
士会群馬県支部とは1月、  
相互協力に関する協定を締  
結しました」と明らかに。  
県議の第2質問「SNS  
を使った情報収集」につい  
ても、危機管理官は「災害  
発生時は現場の情報を正確  
に収集、分析することがも  
つとも重要。SNSからの  
リアルな現場情報を取り入  
れることで、迅速で適切な  
初動対応や関係団体への連  
絡に役立てられる」との考  
えを示しました。

トピックス 松本県議  
は一般会計当初予算案  
の「基金残高」の増額と  
「県債発行額」の減少に  
切り込みました。

指摘。北関東の栃木県や茨  
城県の基金残高は絶対額で  
群馬県を大幅に上回り、財  
政規模に対する比率でも高  
進債と退職手当債の発行  
の取り止めが大  
きな理由です。県  
議は「交付税措  
置のない財源対  
策的な県債の不  
発行は、財政健全化を考  
えたいへん良かった」と  
述べ、今後健全性の確保  
に努めるよう求めました。

#### 県財政の健全化を要望 「基金の増額」「県債の減額」

基金残高は1  
85億円と前年  
度の24億円を大  
幅に上回しまし  
たが、令和6年度の交付  
税清算分120億円が含  
まれていることを踏まえ、  
前年度増は実質41億円と

一方、県債発行額は590  
億円で、前年度と比べ47・  
3%、529億円の減とな  
りました。行財政改革推  
進債と退職手当債の発行  
の取り止めが大  
きな理由です。県  
議は「交付税措  
置のない財源対  
策的な県債の不  
発行は、財政健全化を考  
えたいへん良かった」と  
述べ、今後健全性の確保  
に努めるよう求めました。



**井野川の洪水対策図**

井野川周辺は道路や宅地の整備が進み、雨水の流入が年を追うごとに増えています。加えて、気象変動に伴って集中豪雨のリスクも危惧され、高崎市内を流れる河川の中でも早急な対策が求められています。

防災への関心が高い松本県議は井野川の改修を注視しており、県議会一般質問で取り上げたほか、万に備えた調節池の整備も支援しています。

県土整備部は本年度から調節池の詳細設計のための調査に着手します。上流部

**井野川の調節池整備 洪水リスクに先手対応!**

阿弥陀橋（保渡田町）から鎌倉橋（綿貫町）に至る14・7キロ間に4カ所整備する計画で、ほぼ中間地点の染谷川との合流地点を最優先に整備する方針です。

6月2日には地元の水利組合や地区幹部らを対象に代表者説明会を開きました。その中でも本年度実施する調査などを説明、地下水の状況などを把握しつつ調節池の最適な範囲や深さなどを詰めていきます。

平成23年の台風12号、令和元年の台風19号などでも井野川の水位は「上がりや

すい」状況が把握され、県は昨年までに川幅や水深などの改修を終えました。しかし、流水を受け入れる能力の不足が危惧され、「30年に1回発生すると予想される洪水」対策として4カ所の調節池を計画しています。

松本県議は「候補地で農業を営む知人もおり、生業の農地を失う「苦しみ」も聞かせてきます。それでも、井野川周辺で生活する市民を守る対策ですので、県と協力して洪水対策を進めてまいります」と、政治家の辛い胸の内を正直に話しています。

**西毛広幹道の整備進む**

西毛広域幹線道路（西毛広幹道）高崎西工区の一部区間約2・4キロは3月26日、開通しました。周辺の渋滞緩和などが期待されています。

西毛広幹道は前橋、高崎、安中、富岡の各市を結ぶ総延長27・8キロの道路。今回開通したのは県道高崎安中渋川線から県道あら町下室田線までの間。



式典に参加して開通を喜ぶ松本県議

群馬県議会の産経土木常任委員会は4月20日、JR前橋駅北口のアクエル前橋にオープンした「tsukurun」を視察しました。

この施設はデジタルクリエイティブに特化した全国の若年人材の育成拠点。委員もVR（仮想現実）などを体験、委員会副委員長の松本県議は「とても素晴らしい施設。今後県内各地に増やして欲しい。2カ所目は是非交通の便の良い高崎市に」と要望しました。

**デジタル技術の創作を学ぶ 産経土木常任委「tsukurun」視察**



障害があっても幸せをつかんでほしい。高崎市議会議員となつて政治に携わつてからずっと、変わらぬ思いを強く持ち続けてきました。

群馬県は新総合計画で「障害の有無にかかわらず県民が幸福を実感できる社会」を掲げました。高崎アリーナで3月21日に開かれたインクルーシブ群馬フォーラムでも、あいさつの中で群馬県の姿勢を紹介させていただきました。

フォーラムで、障害当事者が運営し、手助けを必要とする人の自立を支援する姿を拝見し考

えさせられました。全国には自立生活センターが121カ所あるそうです。それなのに群馬県は1カ所だけ。設置が遅れている状況を危惧しています。

フォーラムに参加した「心のバリアフリー」を会の名称に盛り込んでいる「ココフリ群馬」の活動は以前から関心を持っていました。県内のバリアフリー観光情報をホームページなどで発信しており、私も活動に参加して藤岡市の桜山公園に行ってきました。

だれもが幸せになれるよう力を尽くしたいと思います。

**だれもが「幸せになつてほしい」バリアフリー活動応援します。**

